

いせはらしNo.170いせき

伊勢原市No.170遺跡

(伊勢原市No.170遺跡)

調査期間 20080801～20081031

所在地 伊勢原市伊勢原

時代

縄文
奈良・平安
中世
近世



作成日:20090701

概要

本遺跡の発掘調査は神奈川県平塚土木事務所による緊急地方道路整備工事に伴うもので、平成19年度から断続的に実施しています。

伊勢原市No.170遺跡は伊勢原市役所の北側に広がる伊勢原台地上に立地する遺跡で、この遺跡地内では沼目(ぬまめ)・坂戸(さかど)遺跡をはじめとして、池端(いけばた)・椿山遺跡や池端・金山(かなやま)遺跡、池端・駒形(こまがた)遺跡等、過去に多くの発掘調査が行われてきました。

同じ事業で行った平成19年度の発掘調査では、現在の県道沿いにのびる近世頃の道を発見しました。平成20年度の調査地点は、この道を確認した地点から北東へおよそ50mのところにあります。調査地点のすぐ北東には「池端東」の交差点があり、交差点の東側は平成14年度に当財団が池端・椿山遺跡として発掘調査を行った地点です。

県道沿いに幅4m前後、全長40m程の細長い調査区を設定し、発掘調査を行いました。発見した主な遺構は、中世頃の溝、縄文時代のピット群や埋甕(うめがめ)等があげられます。中世頃の溝は幅3～5m、深さおよそ1.5mの規模が大きく、調査区を横断するように南北方向にのびています。溝の底面には硬く締まった面(硬化面(こうかめん))が残っていたことから、この遺構が「溝」ではなく「道」として機能していた



▲ 溝全景(中世)



▲ 2号埋甕(口縁部下)(縄文)

可能性も考えられます。縄文時代のピット群は 250 基を超え、ほぼ調査区一面に分布している状況でした。ピットは平面形が円形あるいは楕円形のものが多く見られ、径 0.3～0.5m、深さは 0.4m 前後となります。一方、埋甕は調査の東側に偏って分布しており、発見した 5 基の埋甕のうち、1 基は土器の口縁(こうえん)部を下にして伏せた状態(伏甕(ふせがめ))で、それ以外は口縁部を上にした状態で埋められていました。埋甕は竪穴住居の入口付近に伴う場合が多いのですが、今回発見した 5 基の埋甕の中で明確に竪穴住居に伴う埋甕と捉えられるものは 1 基のみでした。埋甕に使用されていた土器やピット等から出土した土器は、その大部分が縄文時代中～後期に位置付けられるものです。

伊勢原市 No.170 遺跡内の発掘調査によって、「池端東」交差点付近の伊勢原台地上に縄文時代中～後期の集落が営まれていたことが判明しています。今回の調査で確認した 250 基を超える縄文時代のピット群や埋甕等は、今回の調査地点がこの縄文集落の一部であったことを示しています。遺構の分布する密度や出土した土器の量等を考えると、縄文集落の中でも中心部に近い位置にあたるのかもしれません。

平成 21 年度には、平成 19 年度の調査地点と今回の調査地点との間にあたる部分の発掘調査が予定されています。この部分の発掘調査によって、この縄文集落の西側の広がりが見られるのではないのでしょうか。



▲ 3号埋甕(口縁部上)(縄文)



▲縄文面全景と「池端東」交差点